

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-128444

(43)Date of publication of application : 16.05.1997

(51)Int.Cl.

G06F 17/60

(21)Application number : 07-309791 (71)Applicant : MATSUZAWA HIROKO

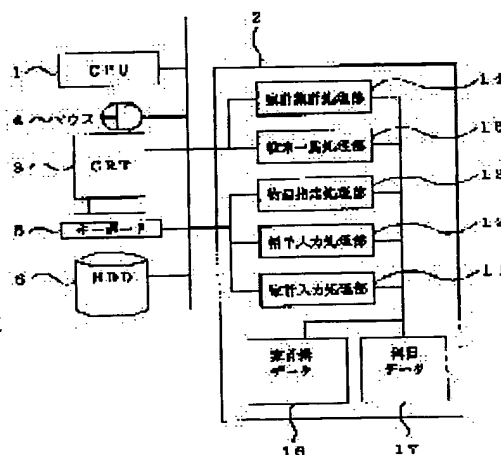
(22)Date of filing : 02.11.1995 (72)Inventor : MATSUZAWA HIROKO

(54) ELECTRONIC HOUSEKEEPING BOOK

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To make it possible to input even gift exchange data with a housekeeping book input screen.

SOLUTION: This housekeeping book consists of a household economy input processing part 11, the opposite party input processing part 12, an article specifying processing part 13, a household economy tabulation processing part 14 and a retrieval/tabulated data preparation processing part 15. In this case at the time of inputting gift exchange data in the household economy input processing part 11, the gift exchange opposite party is inputted by the opposite party input processing part 12 and at the time of inputting article gift exchange data, the effect to be an article is inputted by the article specifying processing part 13. At the time of tabulating housekeeping book data by the household economy tabulation processing part 14, data except article gift exchange data are tabulated and at the time of tabulating gift exchange data, exchanged gift and exchanged article data are tabulated by opposite parties of gift exchange.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 11.04.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-128444

(43) 公開日 平成9年(1997)5月16日

(51) Int.Cl.⁸

G 0 6 F 17/60

識別記号

庁内整理番号

F I

G 0 6 F 15/21

技術表示箇所

P

審査請求 未請求 請求項の数 5 F D (全 26 頁)

(21) 出願番号 特願平7-309791

(22) 出願日 平成7年(1995)11月2日

(71) 出願人 594082350

松澤 裕子

長野県松本市大字内田62番地10

(72) 発明者 松澤 裕子

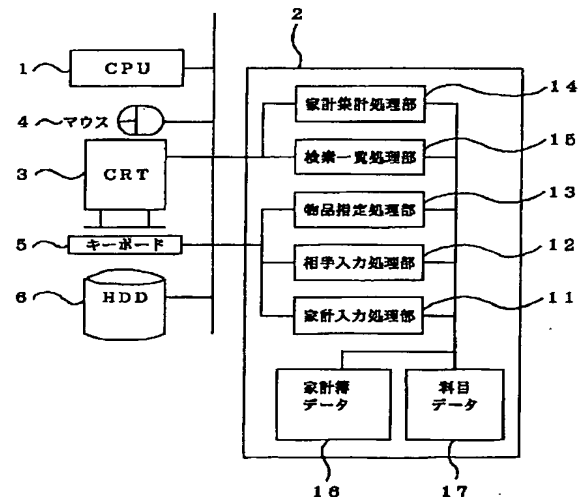
長野県松本市大字内田62番地10

(54) 【発明の名称】 電子式家計簿

(57) 【要約】

【目的】 電子式家計簿において家計簿入力画面で贈答データも入力可能とする。

【構成】 家計入力処理部 11、相手入力処理部 12、物品指定処理部 13、家計集計処理部 14、検索一覧処理部 15 から構成され、家計入力処理部 11 の中で贈答データを入力するとき相手入力処理部 12 によって贈答相手を入力し、物品の贈答データを入力するとき物品指定処理部 13 によって物品であることを入力する。集計処理部 14 で家計簿データを集計するときには物品の贈答データを除いて集計し、贈答データを集計するときには贈答相手ごとで贈答及び物品の贈答データを集計し目的を得る。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 収入と支出の家計科目と金額を入力して家計データを記録し、家計科目別の収入支出額、現金残高、銀行等の口座残高を集計する電子式家計簿において、贈答収入及び贈答支出を記録するための家計科目を含み、収入及び支出の家計科目を記憶するための収入支出科目記憶手段と、前記家計科目から選択した家計科目と金額を入力して家計データを作成するための家計データ入力手段と、前記家計データが前記収入支出科目記憶手段によって記憶されている贈答収入及び贈答支出の家計科目を持つとき、贈答相手を入力し家計データに記録するための贈答相手入力手段と、前記家計データが贈答収入及び贈答支出の家計科目を持つとき、家計データの種類の物品又は現金であることを指定し家計データに記録する物品指定手段と、前記家計データの中で、前記物品指定手段によって物品であると指定された家計データを除いて現金及び口座残高を計算する家計集計手段と、前記家計データから、贈答収入及び贈答支出の家計科目を持つ家計データを検索し、前記贈答相手入力手段で入力された贈答相手別に贈答経過一覧データを作成する贈答データ検索手段を備えたことを特徴とする電子式家計簿。

【請求項2】 収入と支出の家計科目と金額を入力して家計データを記録し、家計科目別の収入支出額、現金残高、銀行等の口座残高を集計する電子式家計簿において、収入又は支出家計科目と金額を入力し家計データを作成するための家計データ入力手段と、金銭や物品の贈答を行った贈答相手を記憶するための贈答相手記憶手段と、前記家計データ入力手段によって金銭の贈答又は贈答のための支出の家計データを入力するときに前記贈答相手記憶手段によって記憶されている贈答相手を選択し家計データに記録するための贈答相手選択手段と、日付、贈答品及び前記贈答相手記憶手段によって記憶されている贈答相手を選択し物品贈答データを作成するための贈答データ入力手段と、前記家計データ及び前記物品贈答データを検索して、前記贈答相手記憶手段によって記憶されている贈答相手別に贈答経過一覧データを作成する、贈答一覧データ作成手段を備えたことを特徴とする電子式家計簿。

【請求項3】 収入と支出の家計科目と金額を入力して家計データを記録し、家計科目別の収入支出額、現金残高、銀行等の口座残高を集計する電子式家計簿において、商品券やプリペイドカード等の金券の種類と金券の残高を記憶するための金券残高記憶手段と、家計科目と金額を入力して家計データを作成するための家計データ入力手段と、前記家計データ入力手段によって入力する家計データが、金券の購入又は金券による支出のとき、前記金券残高記憶手段によって記憶されている金券の種類を選択し家計データに記録するための金券選択手段と、前記家計データ入力手段によって入力された家計デ

ータの中で、前記金券選択手段で金券と指定された家計データを除いて、現金及び口座の残高を計算する家計集計手段と、前記金券選択手段によって金券と指定された家計データを集計し、金券の種類毎に金券の残高を計算する金券残高集計手段を備えたことを特徴とする電子式家計簿。

【請求項4】 収入と支出の家計科目と金額を入力して家計データを記録し、家計科目別の収入支出額、現金残高、銀行等の口座残高を集計する電子式家計簿において、銀行等の現在の口座残高及び口座下限額を記憶する口座残高記憶手段と、自動振替による支払のための振替日、振替金額、振替口座を記憶する振替データ記憶手段と、事前に口座の残高をチェックする期間を記憶するための事前期間記憶手段と、前記口座残高記憶手段によって記憶されている現在の口座残高から、前記事前期間記憶手段によって記憶されている期間に発生する振替データを決済したとき、前記口座残高記憶手段によって記憶されている口座下限額未満かどうかチェックする口座残高チェック手段と、前記口座残高チェック手段によって口座下限額未満と判断されたときは、口座残高不足の警告メッセージを表示するメッセージ表示手段を備えたことを特徴とする電子式家計簿。

【請求項5】 収入と支出の家計科目と金額を入力して家計データを記録し、家計科目別の収入支出額、現金残高、銀行等の口座残高を集計する電子式家計簿において、収入と支出の家計科目と金額を入力して家計データを作成するための家計データ入力手段と、支払方法として現金又は銀行等の口座を指定し家計データに記録するための支払指定手段と、前記家計データのなかで、前記支払指定手段によって口座と指定した家計データの購入金額を記憶するための買掛金記憶手段と、前記購入金額を決済する決済日付を入力するための決済日入力手段と、前記決済日付で前記口座指定手段によって指定された口座から、前記購入金額の振替を行う決済データを作成するための決済データ作成手段と、前記決済データを基に家計データを作成するための決済実行手段を備えたことを特徴とする電子式家計簿。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【産業上の利用分野】 本発明はコンピュータ等を利用して家計を記録する電子式家計簿に関する。

【0002】

【従来の技術】 請求項1及び請求項2における従来技術では、贈答の管理を行う電子式家計簿は既にあるが、通常の家計データの入力画面とは別のメニューから贈答入力画面を起動し入力を行っていた。また贈答にはお祝い金の様に金銭の場合もあれば、中元や歳暮の様に物品の場合もあるが、金銭を贈った又は受け取った場合は通常の収入又は支出になるので家計データの入力画面で入力し、贈答入力画面でも入力していた。物品を受け取った

場合は別メニューから起動する贈答入力画面で入力していた。

【0003】請求項3における従来技術では、商品券やプリペイドカード等の現金と同じ価値を持つ金券を電子式家計簿の中で管理する手段が今までなかった。このため、金券を管理をしていないか、手帳等に金券の残高を記入して管理していた。

【0004】請求項4における従来技術では、電子式家計簿の中には銀行等の口座から支払う自動振替の設定が可能なものも多いが、振替日に振替データを家計データに反映させていた。

【0005】請求項5における従来技術では、購入してクレジットカード等で支払いを行った場合、従来の電子式家計簿に入力しようとすると、クレジットカード等による支払いでは購入日と支払日が異なるため、支払日か購入日のどちらかで入力していた。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】請求項1及び請求項2では、贈答にはお祝い金の様に金銭の場合もあれば、中元や歳暮の様に物品の場合もある。物品を受け取った場合は家計データに反映させる必要がないので贈答入力画面で入力するだけで良いが、金銭を贈る又は受け取る場合は通常の収入又は支出になるので家計データの入力画面で入力する。しかし贈答記録へ反映させるためには、同じデータを贈答入力画面でも入力する必要があり、二度手間であった。同様に物品を贈る場合でも、物品の購入は支出として家計データに記録し、贈答入力画面でも贈答として入力する必要があり手間がかかるという問題があった。

【0007】請求項3では、金券の管理ができないため、どれくらいの金券が手元にあるのかが分からず、金券が使われずに退蔵され無駄になっていた。また、多目的に使える金券によって支払った場合は、支払いの家計科目が多種類になるが、現金や銀行等の口座を利用していないので家計データとして入力すると現金や口座残高が合わなくなり家計データとして入力できない。このため家計科目毎の収入支出の分析にも反映しないという問題があった。しかも使用途中での金券の残高も分からなかった。

【0008】請求項4では、振替日に振替データを家計データに反映させていたため、電子式家計簿に家計データを入力していても、振替当日にならないと口座残高がいくらになるか分からなかった。又は、現在の口座残高と振替予定を電卓等で計算して、口座残高が不足するかどうかをチェックする必要があり手間がかかった。最近では自動振替の種類や数も増えたため、口座の残高が不明になりやすく、振替日に口座残高が不足して振替不能の督促状がきてしまうという問題があった。これを防ぐため振替金額が不足しないように多額の金額を常時、口座に残しておくといった方法を取っていたが、これではお

金を有効利用できないという問題があった。

【0009】請求項5では、クレジットカード等の支払いを、購入日で電子式家計簿に入力すると、実際に口座から支払われるのは先であるため口座残高が実体と合わなくなり、支払日で入力すると、今月の支出を分析ができなくなるという問題があった。例えば、食料品を購入してクレジットカードで支払うと、支払は来月以降になるので、支払日で入力すると今月の食費が分からなくなるという問題があった。

【0010】本発明はこのような問題を解決するためになされたもので、請求項1及び請求項2では贈答の品物や金銭を管理するための入力を容易にし、特に家計簿と贈答管理の二重のデータ入力を無くし、贈答の管理を容易にすることを目的としている。請求項3では商品券やプリペイドカード等の金券データの入力を家計簿の中で入力できるようにし、金券による出費の明細や金券の残高が分かるように金券管理を行い、金券の退蔵を防いで有効利用することを目的としている。請求項4では口座残高不足による自動振替不能を防ぎ、また必要以上の口座への入金を防ぎ資金の有効利用をはかることを目的としている。請求項5では、クレジットカード等の購入による、購入日と支払日が異なる家計データの入力を容易にし、かつ家計データや口座残高に正しく反映させることを目的としている。

【0011】

【課題を解決するための手段】請求項1では収入と支出の家計科目と金額を入力して家計データを記録し、家計科目別の収入支出額、現金残高、銀行等の口座残高を集計する電子式家計簿において、贈答収入及び贈答支出を記録するための家計科目を含み、収入及び支出の家計科目を記憶するための収入支出科目記憶手段と、前記家計科目から選択した家計科目と金額を入力して家計データを作成するための家計データ入力手段と、前記家計データが前記収入支出科目記憶手段によって記憶されている贈答収入及び贈答支出の家計科目を持つとき、贈答相手を入力し家計データに記録するための贈答相手入力手段と、前記家計データが贈答収入及び贈答支出の家計科目を持つとき、家計データの種類が物品又は現金であることを指定し家計データに記録する物品指定手段と、前記家計データの中で、前記物品指定手段によって物品であると指定された家計データを除いて現金及び口座残高を計算する家計集計手段と、前記家計データから、贈答収入及び贈答支出の家計科目を持つ家計データを検索し、前記贈答相手入力手段で入力された贈答相手別に贈答経過一覧データを作成する贈答データ検索手段を備えたことを特徴とする。

【0012】請求項2では収入と支出の家計科目と金額を入力して家計データを記録し、家計科目別の収入支出額、現金残高、銀行等の口座残高を集計する電子式家計簿において、収入又は支出家計科目と金額を入力し家計

データを作成するための家計データ入力手段と、金銭や物品の贈答を行った贈答相手を記憶するための贈答相手記憶手段と、前記家計データ入力手段によって金銭の贈答又は贈答のための支出の家計データを入力するときに前記贈答相手記憶手段によって記憶されている贈答相手を選択し家計データに記録するための贈答相手選択手段と、日付、贈答品及び前記贈答相手記憶手段によって記憶されている贈答相手を選択し物品贈答データを作成するための贈答データ入力手段と、前記家計データ及び前記物品贈答データを検索して、前記贈答相手記憶手段によって記憶されている贈答相手別に贈答経過一覧データを作成する、贈答一覧データ作成手段を備えたことを特徴とする。

【0013】請求項3では収入と支出の家計科目と金額を入力して家計データを記録し、家計科目別の収入支出額、現金残高、銀行等の口座残高を集計する電子式家計簿において、商品券やプリペイドカード等の金券の種類と金券の残高を記憶するための金券残高記憶手段と、家計科目と金額を入力して家計データを作成するための家計データ入力手段と、前記家計データ入力手段によって入力する家計データが、金券の購入又は金券による支出のとき、前記金券残高記憶手段によって記憶されている金券の種類を選択し家計データに記録するための金券選択手段と、前記家計データ入力手段によって入力された家計データの中で、前記金券選択手段で金券と指定された家計データを除いて、現金及び口座の残高を計算する家計集計手段と、前記金券選択手段によって金券と指定された家計データを集計し、金券の種類毎に金券の残高を計算する金券残高集計手段を備えたことを特徴とする。

【0014】請求項4では収入と支出の家計科目と金額を入力して家計データを記録し、家計科目別の収入支出額、現金残高、銀行等の口座残高を集計する電子式家計簿において、銀行等の現在の口座残高及び口座下限額を記憶する口座残高記憶手段と、自動振替による支払のための振替日、振替金額、振替口座を記憶する振替データ記憶手段と、事前に口座の残高をチェックする期間を記憶するための事前期間記憶手段と、前記口座残高記憶手段によって記憶されている現在の口座残高から、前記事前期間記憶手段によって記憶されている期間に発生する振替データを決済したとき、前記口座残高記憶手段によって記憶されている口座下限額未満かどうかチェックする口座残高チェック手段と、前記口座残高チェック手段によって口座下限額未満と判断されたときは、口座残高不足の警告メッセージを表示するメッセージ表示手段を備えたことを特徴とする。

【0015】請求項5では収入と支出の家計科目と金額を入力して家計データを記録し、家計科目別の収入支出額、現金残高、銀行等の口座残高を集計する電子式家計簿において、収入と支出の家計科目と金額を入力して家

計データを作成するための家計データ入力手段と、支払方法として現金又は銀行等の口座を指定し家計データに記録するための支払指定手段と、前記家計データのなかで、前記支払指定手段によって口座と指定した家計データの購入金額を記憶するための買掛金記憶手段と、前記購入金額を決済する決済日付を入力するための決済日入力手段と、前記決済日付で前記口座指定手段によって指定された口座から、前記購入金額の振替を行う決済データを作成するための決済データ作成手段と、前記決済データを基に家計データを作成するための決済実行手段を備えたことを特徴とする。

【0016】

【作用】請求項1では家計データ入力画面で物品の贈答を入力するときは、贈答相手と物品を入力操作で指定すると、家計データに物品と贈答相手を記録する。通常の家計簿の集計では、集計処理の中で物品の家計データを除外して集計することによって、金銭の集計を正しく行い、贈答一覧データを出力するときは、家計データから贈答相手をキーで集計することによって、贈答相手別で贈答経過データを作成する。

【0017】請求項2では、家計データ入力と贈答データ入力で共通の贈答相手をデータとして持ち、家計データ入力画面では金銭に関わる贈答を贈答相手とともに入力し家計データに記録する。物品の贈答は贈答データ入力画面で贈答相手と共に入力し贈答データに記録する。贈答一覧データを出力するときは、家計データと贈答データの両方のデータから贈答相手をキーで集計することによって、贈答相手別で贈答経過データを作成する。

【0018】請求項3では、商品券やプリペイドカードのような金券の残高を管理するための口座を持ち、家計データ入力画面で金券と指定したときは家計データの中に金券の種類を記録しておく。現金や銀行等の口座残高を集計する処理では家計データの中で金券の種類が記録された家計データを除外して集計する。金券の残高を集計するときは家計データの中で金券の種類が記録された家計データを集計することによって金券データ毎の残高を求める。

【0019】請求項4では、チェックする期間によって定義されている期間で、銀行等の口座から自動振替によって支払う振替データについて、振替を行ったとき銀行等の口座残高を計算し、結果が口座下限額未満となるかどうかチェックし、口座下限額未満であれば警告メッセージを表示する。

【0020】請求項5では家計データ入力画面で家計データを入力し、支払方法の入力で銀行等の口座からの支払と指定したときは後払いとみなし支払日を入力する。このとき家計データには買掛金による購入と記録し、同時に支払日に買掛金を決済するための決済データを作成する。また決済データから家計データを作成し、口座残高等に反映させる。

【0021】

【実施例】本発明の請求項1にかかる実施例を図1から図6を用いて説明する。図1は請求項1にかかる実施例の機能ブロック図である。電子式家計簿の全体を制御するためのマイクロプロセッサであるCPU1、プログラムやデータを格納し処理を行うための主メモリ2、文字や金額などを表示するための表示装置であるCRT3、CRT3上の文字やアイコンにカーソルを合わせてボタンをクリックすることによってプログラムを起動したり入力領域を指定するためのポインティング装置であるマウス4、文字や数字を入力するための入力装置であるキーボード5、プログラムやデータを保存するための補助記憶装置であるHDD6から構成されている。これは市販されているパーソナルコンピュータ等と同じ構成である。

【0022】主メモリ2上には、請求項1を実現するための主要部分である処理プログラム、データが格納されている。家計科目や科目内訳、金額等をキーボードから入力し、家計データとして登録するための家計入力処理部11、入力する家計データが贈答のとき、贈答相手を入力するための相手入力処理部12、入力する家計データが贈答の物品であるときに、物品であることを指定し記録するための物品指定処理部13、入力された家計データから、現金や口座の残高、家計科目毎の残高や合計を計算するための家計集計処理部14、家計データから贈答に関わる家計データを検索し贈答経過のデータを作成し出力するための検索一覧処理部15から構成され、データとしては家計入力処理部11によって入力される家計データが格納された家計簿データ16、各処理部によって参照される家計科目が格納された科目データ17から構成されている。

【0023】なお請求項1における収入支出科目記憶手段は科目データ17に、家計データ入力手段は家計入力処理部11に、贈答相手入力手段は相手入力処理部12に、物品指定手段は物品指定処理部13に、家計集計手段は家計集計処理部14に、贈答データ検索手段は検索一覧処理部15に相当する。

【0024】図2は家計入力処理部11によってCRT3に表示され、キーボード5から家計データを入力するための家計データ入力画面20と、検索一覧処理部15によって出力された、贈答相手が鈴木さんの贈答一覧表32の例である。家計データ入力画面20では1行が一つの家計データを表しており、日付の入力領域21、家計データの家計科目を入力する入力領域22、科目の内訳又は贈答相手を入力する入力領域23、収入や支出金額を入力する入力領域24、物品であるかどうかを指定する入力領域25、備考を入力する入力領域26から構成されている。入力行27は食費を入力した例である。入力行28から入力行31は請求項1の発明の特徴である、贈答を入力した例で、いずれも家計科目が贈答収入

科目である「贈答（受）」又は「贈答（贈）」となっている。入力行28は2月12日に鈴木さんから出産祝いとして贈答の現金を受け取った家計データで、入力行29はとなっており、2月15日に田中さんから出産祝いとして物品の贈答を受け取った家計データで、入力行30は3月2日に鈴木さんへ贈答で物品を贈った家計データである。入力行31は3月2日に田中さんへ贈答で現金を贈った家計データである。ここで説明したように家計データ入力画面20のように、通常の家計データと同じ入力画面で贈答の入力ができる。

【0025】贈答一覧表32は家計簿データ16に格納されている家計データから、鈴木さんとの間で行われた贈答経過を出力した例であり、日付領域、贈与か受け取りかを表す贈受領域、現金か物品かを表す種別領域、入金又は物品の場合は相当金額を表す入金額領域、支出金額又は物品の場合は相当金額を表す出金額領域、備考領域から構成されている。例えば表示行33では、家計データ入力画面20の入力行28を贈答一覧表に出力したもので、1995年2月12日に現金で5000円を出産祝いとして受け取ったことを表し、表示行34は入力行30を出力したもので、1995年3月2日に3000円分の物品を出産祝いのお返しで贈ったことを表している。また入金額領域と出金額領域のそれぞれの金額を積算した差額を計算すると、相手との贈答バランスがわかる。このような一覧表により金銭だけでなく物品の贈答も経過がわかる。

【0026】図3は家計簿データ16のデータ構造を示す図であり、1レコードが1家計データに対応している。各レコードは日付、家計科目、科目の内訳、金額、物品かどうかのフラグ、備考から構成されており、これは家計データ入力画面20の画面の構造と同じである。例えばレコード36は入力行28に対応した家計データであり、同じくレコード37は入力行29に、レコード38は入力行30に、レコード39は入力行31に対応している。

【0027】図4から図6までは本実施例における処理のフローチャートである。図4は家計データ入力画面20において家計データを入力する入力処理のフローチャートであり、家計入力処理部11、相手入力処理部12、物品指定処理部13を含んでいる。図5は家計簿データ16から家計科目別の合計や現金残高、口座の残高を計算する集計処理のフローチャートであり、家計集計処理部14に相当する。図6は家計簿データ16から贈答相手別に贈答一覧表32を出力するフローチャートであり、検索一覧処理部15に相当する。これらのフローチャートを使って、請求項1の実施例を具体的に説明する。

【0028】図4のフローチャートでは、S5、S6が相手入力処理部12、S9が物品指定処理部13、S5、S6、S9を除くS2からS12が家計入力処理部

11である。電子式家計簿の家計入力処理部11が起動されると、S1：家計データ入力画面20にあるような入力画面をCRT3に表示する。S3：家計データの日付をキーボード5から入力領域21へ入力する。S4：科目データ17を基に家計科目を入力領域22へ入力する。S5：S4で入力された家計科目が贈答収入科目、又は贈答支出科目のとき、例えば家計データ入力画面20の入力行28の家計データではS5Yへ分岐し、他の収入又は支出科目、例えば入力行27のときはS5Nへ分岐する。S5Yへ分岐すると、S6：贈答相手をキーボード5から入力領域23へ入力する。S5Nへ分岐したときは普通の家計データであるから、S7：科目の内訳を入力領域23へ入力する。S8：収入金額、支出金額又は贈答の物品のときは相当金額を入力領域24へ入力をする。S9：入力中の家計データが金銭の収入支出であるか、物品であるかを入力領域25へ入力する。S10：備考を入力領域26へ入力する。S11：入力した家計データの1レコードを家計簿データ16へ記録する。S12：家計データの入力が未了ならばS12Nへ分岐しS3から再度入力する。入力終了ならS12Yへ分岐し家計データの入力を終了する。この処理によって通常金銭の収入、支出の家計データは家計簿データ16に記録し、なおかつ物品の贈答データも家計簿データ16に記録できた。

【0029】図5は家計集計処理部14のフローチャートであり、電子式家計簿の集計処理を起動すると、S21：家計簿データ16から1レコード分の家計データを取り出す。S22：取り出した家計データレコードの物品フラグが物品である場合（レコード39の例）、S22Yへ分岐し残高の計算を行わない。物品以外ではS22Nへ分岐し、S24：家計データレコードの金額から現金残高、口座残高を計算する。S25：家計簿データ16の家計データが未了であればS25Nへ分岐し再度S21からくり返す。家計データが終了であればS25Yへ分岐し、S26：現金残高、口座残高を格納し、集計処理を終了する。これによって、家計簿データ16の中で物品の家計データを除いて、現金残高や口座残高が計算できた。

【0030】図6は検索一覧処理部15のフローチャートであり、電子式家計簿の贈答一覧を起動すると、S41：贈答一覧データを出力する贈答相手をキーボード5から入力する。S42：家計簿データ16から家計データを1レコード取り出す。S43：取り出した家計データレコードが贈答の家計科目か贈答以外の家計科目であるか判断し、贈答の家計科目のときはS43Yへ分岐する。贈答でない普通の家計科目ではS43Nへ分岐する。ここでS43Yへ分岐するデータには、レコード39のような「贈答（贈）」のための現金の支出、レコード36のような「贈答（受）」による現金の受け取り、レコード38のような「贈答（贈）」で既に手元にある

物品の贈与、レコード37のような「贈答（受）」で物品の受け取りがある。S44：家計データレコードから贈答相手を取り出しS41で入力された贈答相手と一致するか判断し、一致しなければ対象外であるのでS44Nへ分岐し、一致したときはS44Yへ分岐する。S45：贈答の残高を計算する。S46：S42で読み込んだ1レコードとS45で計算した贈答の残高から贈答データを作成し贈答一覧データに追加する。S47：家計簿データ16の家計データが終了したかどうか判断し、未了であればS47Nへ分岐してS42から次の家計データを取り出す。終了であればS47Yへ分岐し、S48：S46で作成された贈答一覧データをCRT3に表示する。

【0031】これらの処理によって、指定された贈答相手別の贈答一覧データが作成でき、贈答一覧表32のような帳票が作成できた。以上説明したように、この実施例によれば普通の家計データ入力画面20で物品の贈答も入力でき、また贈答相手別の贈答経過もデータ作成できるので、贈答管理が容易になる。

【0032】つぎに、請求項2にかかる実施例を図7から図11を用いて詳しく説明する。図7は請求項2にかかる実施例の機能ブロック図であり、CPU1、主メモリ2、CRT3、マウス4、キーボード5、HDD6から構成されており、基本構成は図1と同じである。

【0033】主メモリ2上には、請求項2を実現するための主要部分である処理プログラム、データが格納されている。家計科目や科目内訳、金額等をキーボード5から入力し、家計簿データ43として記録するための家計入力処理部40、物品の贈答データを入力し物品贈答データ45として記録するための贈答入力処理部41、入力された家計簿データ43と物品贈答データ45から、贈答一覧データを作成し出力するための贈答一覧データ作成部42があり、またデータ領域として家計データが格納された家計簿データ43、家計入力処理部40、贈答入力処理部41及び贈答一覧データ作成部42が参照する、贈答相手が格納された贈答相手データ44、物品の贈答データが格納された物品贈答データ45から構成されている。

【0034】なお、請求項2における家計データ入力手段、贈答相手選択手段は家計入力処理部40に、贈答相手記憶手段は贈答相手データ44に、贈答データ入力手段は贈答入力処理部41に、贈答一覧データ作成手段は贈答一覧データ作成部42に相当する。

【0035】図8は家計簿データ43のデータ構造と、物品贈答データ45のデータ構造を示す図である。家計簿データ43の家計データの1レコードは日付、家計科目、家計科目の内訳、金額、備考から構成されている。例えばレコード46は1995年10月23日に鈴木さんへ病気見舞いとして5000円を贈ったことを表している。物品贈答データ45の贈答データの1レコードは

日付、贈与又は受取を表すフラグ、贈答相手、金額、備考から構成されている。例えばレコード47は1995年10月28日に鈴木さんから2000円相当の物品の快気祝いを受け取ったことを表している。なお贈答相手データ44は贈答の相手の名前を格納した一次元配列データである。

【0036】図9は家計入力処理部40によってCRT3に表示され、キーボード5から家計データを入力するための家計データ入力画面50と、贈答入力処理部41によってCRT3に表示され、キーボード5から物品贈答データを入力するための贈答データ入力画面60である。家計データ入力画面50では、1行が一つの家計データを表しており、家計データの日付を入力する入力領域51、家計科目を入力する入力領域52、家計科目の内訳又は贈答相手を入力する入力領域53、収入や支出金額を入力する入力領域54、備考を入力する入力領域55から構成されている。例えば入力行56は食費の560円を入力した例である。入力行57は金銭の「贈答（贈）」を入力した例で、10月23日に鈴木さんへ現金（病気見舞い）を贈った家計データである。これは通常の金銭の支出であり家計データとして入力している。

【0037】贈答データ入力画面60では、1行が一つの贈答データを表しており、贈答データの日付を入力する入力領域61、贈与か受取かを入力する入力領域62、贈答相手を入力する入力領域63、物品の相当金額を入力する入力領域64、備考を入力する入力領域65から構成されている。例えば入力行67は10月28日に鈴木さんから快気祝いの贈答を物品で受け取った場合の入力例であり、金額2000円は物品から見込まれる相当金額である。入力行68は11月10日に佐藤さんへ物品の贈与したデータを入力した例である。この場合の物品の贈与は既に手元にある物品を贈与したとき入力するもので、購入して贈与する場合は入力行57のように普通の家計データとして入力する。

【0038】図10は家計入力処理部40の処理を示すフローチャートであり、S65、S66を除くS61からS71が請求項2における家計データ入力手段に相当し、S65、S66が贈答相手選択手段に相当する。S61：贈答相手データ44を読み込む。S62：家計データの日付を日付入力領域51に入力する。S63：家計科目を入力領域52へ入力する。S64：S63で入力された家計科目が贈答の収入又は贈答の支出のときは、S64Yへ分岐し、それ以外の時はS64Nへ分岐する。S65：S61で読み込んだ贈答相手データ44を表示する。S66：S65で表示した贈答相手を選択し入力領域53へ入力する。S67：通常の家計科目では科目の内訳を入力領域53へ入力する。S68：支出又は収入の金額を金額領域54へ入力する。S69：備考を入力領域55へ入力する。S70：家計データを家計簿データ43へ格納する。例えば贈答の家計科目を持

った家計データでは、レコード46の様に格納される。

S71：家計データの入力を継続する場合はS71Nへ分岐しS62から再度入力する。入力が終了の時はS71Yへ分岐し、終了する。これによって通常の家計データだけでなく、贈答による金銭の収入、贈答のための金銭の支出と贈答相手が記録できた。

【0039】図11は贈答入力処理部41の処理を示すフローチャートである。S81：贈答相手データ44を読み込む。S82：贈答データの日付を入力領域61へ入力する。S83：贈答が贈与であるか、受取であるかを選択し入力領域62へ入力する。S84：贈答相手をS81で読み込んだ贈答相手データ44から選択し入力領域63へ入力する。S85：物品の値踏みした相当金額を金額入力領域64へ入力する。S86：備考を備考入力領域65へ入力する。S87：入力した贈答データレコードを物品贈答データ45へ格納する。S88：贈答データの入力が未了であればS88Nへ分岐しS82から再度入力し、入力が終了であればS88Yへ分岐し、終了する。例えば入力行67のデータは、物品贈答データ45では、レコード47の様に格納される。以上の処理で、贈答データを入力し物品贈答データ45が作成できた。

【0040】図12は贈答一覧データ作成部42の処理を示すフローチャートである。S91：贈答相手データ44の中から出力する贈答相手を選択し入力する。S92：家計簿データ43から家計データを1レコードを読み込む。S93：S92で読み込んだ家計データの家計科目が贈答収入科目又は贈答支出科目で、贈答相手がS91で入力した贈答相手と一致したときはS93Yへ分岐し、S94：贈答一覧データへデータを追加する。S95：家計データが終了かどうか判断し、未了であればS95Nへ分岐してS92から繰り返す。終了であればS95Yへ分岐する。S96：物品贈答データ45から贈答データを1レコードを読み込む。S97：贈答相手がS91で入力した贈答相手と一致するときはS97Yへ分岐し、S98：贈答一覧データにデータを追加する。S99：物品贈答データ45のデータが終了かどうか判断し、未了であればS99Nへ分岐してS96から繰り返す。終了であればS99Yへ分岐し、S100：作成された贈答一覧データを日付でソートする。S101：作成したソート済み贈答一覧データをCRT3へ出力する。これは図2の贈答一覧表32と同じ帳票である。以上でプログラムを終了する。これによって、家計簿データ43と物品贈答データ45から、贈答相手別の贈答経過の一覧データが作成できた。

【0041】以上説明したように、この実施例によれば、金銭の贈答データは普通の家計データ入力画面50で入力し、物品の贈答データは贈答データ入力画面60で入力するだけで、贈答相手別の贈答経過を記録した贈答一覧データが作成でき、金銭の贈答を贈答データとし

て再入力する必要がなくなるので、操作が簡単になる。

【0042】つぎに、請求項3にかかる実施例を図13から図17を用いて詳しく説明する。図13は請求項3にかかる実施例の機能ブロック図である。CPU1、主メモリ2、CRT3、マウス4、キーボード5、HDD6から構成されており、基本構成は図1と同じである。

【0043】主メモリ2上には、請求項3を実現するための主要部分である処理プログラム、データが格納されている。家計科目や科目内訳、金額等をキーボードから入力し、家計簿データ73として記録するための家計入力処理部70、入力された家計簿データ73から、現金残高や銀行等の口座残高を計算するための家計集計処理部71、入力された家計簿データ73から、商品券やプリペイドカード等の金券の残高を計算するための金券残高集計部72からなり、データ領域として、家計簿データ73、家計集計処理部71によって作成される現在の現金残高や銀行等の口座残高を格納した現金口座残高データ74、金券の種類と金券残高集計処理部72によって作成される金券の残高を格納した金券口座データ75から構成されている。

【0044】請求項3における金券残高記憶手段は金券口座データ75に、家計データ入力手段と金券選択手段は家計入力処理部70に、家計集計手段は家計集計処理部71に、金券残高集計手段は金券残高集計部72に相当する。

【0045】図14は現金口座残高データ74及び金券口座データ75のデータ構造例を示した図である。現金口座残高データ74は口座名と口座残高が1レコードとなっており、これが銀行等の口座数並んでいる。この中に現金も含んでいる。金券口座データ75は金券名と金券残高が1レコードとなっており、これが金券数並んでいる。

【0046】図15は家計入力処理部70によってCRT3に表示される、家計データを入力する家計データ入力画面80である。日付を入力する入力領域81、家計科目を入力する入力領域82、科目の内訳を入力する入力領域83、金額を入力する入力領域84、現金や銀行等の口座、又は金券であることを指定するための入力領域85からなる。またサブウィンドウとして、金券を選択するための候補を表示する金券口座選択ウィンドウ86がある。

【0047】図16は家計入力処理部70の処理を示すフローチャートである。S116、S117が請求項3の金券選択手段に相当し、S116、S117を除いたS110からS121が家計データ入力手段に相当する。家計データの入力を起動すると、S110：家計データ入力画面80をCRT3に表示する。S111：家計データの日付を入力領域81へ入力する。S112：家計科目を入力領域82へ入力する。S113：家計科

目の内訳を入力領域83へ入力する。S114：金額を入力領域84へ入力する。S115：入力中の家計データが金券の購入又は金券による支払いのときはS115Yへ分岐し、S116：金券口座選択ウィンドウ86を表示する。S117：金券口座選択ウィンドウから金券口座を選択し、入力領域85へ反映させる。S120：入力した家計データを家計簿データ73へ格納する。S121：入力が終了でなければS121Nへ分岐し、S111が次のデータを入力する。入力終了であればS121Yへ分岐し終了する。これらの処理によって、家計簿データ73には通常の家計データ外に金券の購入や金券による支払いデータも入力することができた。

【0048】図17は家計集計処理部71及び金券残高集計部72の処理を示すフローチャートである。S124、S125が金券残高集計部72に相当し、S124とS125を除いたS122からS129が家計集計処理部71に相当する。集計処理に起動がかけると、S122：家計簿データ73から家計データを1レコード読み込む。S123：読み込んだ家計データレコードが金券の購入か金券による支払いによるときはS123Yへ分岐し、金券の処理を行う。S124：家計データから金券口座を特定し金券の残高を計算する。S125：金券残高を金券口座データ75へ格納する。S123において、金家以外の家計データではS123Nへ分岐し、S126：家計データから現金か銀行等の口座かを特定し現金の残高又は口座残高を計算する。S127：計算した現金又は口座の残高を現金口座残高データ74へ格納する。S128：家計データから家計科目別の合計を計算する。S129：家計簿データ73が終了でなければS129Nへ分岐しS122へ戻って次の家計データを処理する。家計簿データ73が終了であればS129Yへ分岐し終了する。

【0049】これによって、通常の家計データから現金や銀行等の口座残高は現金口座残高データ74として計算され、金券の購入、金券による支払いでは金券の残高が金券口座データ75に計算される。また金券購入、金券による支払いであっても、支出の内容は家計科目別に集計されるので、支出内容のデータに反映される。従ってこの実施例によれば商品券やプリペイドカード等の残高管理や支払いの管理ができる。なおこの実施例では図17のフローチャートのように集計処理（家計集計処理部71、金券残高集計部72）を入力処理と分けているが、家計データを入力時に家計集計処理部71や金券残高集計部72を動作させることもできる。その場合は図16のS120で入力した家計データを家計簿データ72に登録するとき、S123からS128を実行する。このようにすると、家計データ入力時に現金口座残高データ74や金券口座データが更新され、別メニューからの更新処理の起動が不要となる。

【0050】次に、請求項4にかかる具体的な実施例を

図面を用いて詳細に説明する。図18は請求項4の発明にかかる実施例の機能ブロック図である。CPU1、主メモリ2、CRT3、マウス4、キーボード5、HDD6から構成されており、基本構成は図1と同じである。

【0051】主メモリ2上には、請求項4を実現するための主要部分である処理プログラム、データが格納されている。口座の残高不足の場合に警告メッセージを表示するための表示処理部100、口座残高が予め設定された下限額より少ないかどうかをチェックするための口座残高チェック部101、また口座残高チェック部101が参照するためのデータとして、チェック期間を記憶しているチェック期間データ102、支払いのための口座から自動振替を行う振替データが格納されている振替データ103、振替を行う銀行等の口座の残高が格納されている口座残高データ104、銀行等の口座残高の下限額を格納してある口座下限額データ105で構成されている。

【0052】請求項4における口座残高記憶手段は口座残高データ104と口座下限額データ105に、振替データ記憶手段は振替データ103に、口座残高チェック手段は口座残高チェック部101に、事前期間記憶手段はチェック期間データ102に、メッセージ表示手段は表示処理部100及びCRT3に相当する。

【0053】図19は表示処理部100によって表示された、警告メッセージウインドウの例であり、表示領域112に示す様に「10月21日 AB銀行 総合口座がXXX円不足します。住宅ローン YYY円が振替できません。」という内容のメッセージである。メッセージの内容を確認後、ボタン111を指定するとメッセージが終了する。

【0054】図20は振替データ103、口座残高データ104及び口座下限額データ105の構造例を示した図である。振替データ103は振替を行う日付120、家計科目121、家計科目の内訳122、金額123、口座124の各領域から構成されている。例えばレコード125では毎月12日に家計科目=水道光熱費、内訳=水道料で1600円をAB銀行の総合口座から振替をおこなうことを表している。また口座残高データ104、口座下限データ105は同じテーブルにデータが格納しており、1レコードは口座名、口座残高、口座下限額から構成されている。例えばレコード126ではCD銀行の口座残高が10000円、下限額が-50000円となっている。口座下限額がマイナスに設定できるのは銀行の総合口座で自動融資が行われる場合である。レコード127はAB銀行の総合口座の口座残高が1000円で、口座下限額が0円であることを示している。

【0055】図21は表示処理部100及び口座残高チェック部101の処理を示すフローチャートである。S148及びS149が表示処理部100に相当し、S1

48とS149を除いたS141からS150が口座残高チェック部101に相当する。このフローチャートと図18～図20を用いて動きを詳しく説明する。家計簿プログラムに起動がかかると、S141：口座残高データ104と口座下限額データ105を読み込む。S142：チェック期間データ102を読み込む。S143：振替データ103から振替データを1レコードを読み込む。S144：読み込んだ振替データの振替日を計算する。例えば振替データ103のレコード125では、毎月12日となっているので、今日が12日及び12日以前なら振替日は今日の12日、今日が12日以後なら、来月の12日とする。

【0056】S145：S144で求めた日付が、チェック期間データ102の範囲に入っているか判断する。例えばチェック期間データが10日であれば、チェックを行う期間は今日から10日後の日付となり、その期間にS144で求めた振替日が入るか判断する。期間外であれば、計算対象外なので145Nへ分岐する。期間内であればS145Yへ分岐し、残高チェックの処理を行う。S146：S143で読み込んだ振替データと現在の口座残高から振替を行った場合の口座残高を計算する。例えばレコード125では振替を行う口座がAB銀行総合であるから、AB銀行の口座残高は1000円であり、 $1000 - 1600 = -600$ 円となる。

【0057】S147：計算した口座残高が口座下限額105で設定されている下限額未満のときはS147Yへ分岐し、S148：警告メッセージを作成する。警告メッセージには、振替の日付、銀行等の口座名、不足する金額、振替ができない振替データの内容と金額を編集する。レコード125の例では、振替を行うと-600円で口座下限額0円未満であるので、S147Yへ分岐し警告メッセージを作成する。この場合のメッセージは『X月12日「AB銀行 総合口座」が600円不足します。「水道光熱費 水道料 1,600円」が振替できません』となる。S149：警告メッセージをCRT3へ表示する。S147で口座下限額以上のときは、S147Nへ分岐し警告メッセージは作成表示しない。

【0058】S150：振替データ103の振替データが未了であればS150Nへ分岐しS143で次の振替データを読み込む。振替データが終了であればS150Yへ分岐し終了する。以上説明したように、本実施例によればチェック期間データ102で定義された期間で発生する振替が、振替可能かどうか事前にわかり不足額も分かるので、振替不能となることを防ぎ、また余分に口座に残高を残す必要もなくなり、資金の有効利用がはかれる。なお、この発明は電子式家計簿だけでなく銀行帳や財務会計でも利用可能である。

【0059】次に、請求項5にかかる具体的な実施例を図面を用いて詳細に説明する。図22は請求項5の発明

にかかる実施例の機能ブロック図である。CPU1、主メモリ2、CRT3、マウス4、キーボード5、HDD6から構成されており、基本構成は図1と同じである。

【0060】主メモリ2上には、請求項5を実現するための主要部分である処理プログラム、データが格納されている。家計科目や家計科目の内訳、金額等をキーボード5から入力し、家計簿データ134として記録するための家計入力処理部130、家計データがクレジットカード等による購入で口座からの後払いになるとき、後払いの決済データを作成する決済データ作成部131、決済を行って銀行等の口座残高へ反映し、家計簿データ134に家計データとして追加する処理を行う決済実行処理部132から構成され、データ領域として、家計簿のデータを格納している家計簿データ134、購入から支払いまでの間の買掛金を一時的に記憶する買掛金データ135、買掛金を決済するための決済データを格納するための買掛決済データ136、銀行等の口座や残高を格納した口座残高データ137から構成される。

【0061】請求項5における家計データ入力手段と支払指定手段は家計入力処理部130に、買掛金記憶手段は買掛金データ135に、決済日入力手段と決済データ作成手段は決済データ作成部131に、決済実行手段は決済実行処理部132に相当する。

【0062】図23は家計入力処理部130によって表示される家計データ入力画面140と、支払方法の選択を行うための支払方法選択ウインドウ150である。家計データ入力画面140は、家計データの日付、家計科目、家計科目の内訳、金額および支払方法を入力する入力領域143から構成されている。例えば入力行141では10月21日に日用品を1230円で購入し、AB銀行総合口座から支払うように入力している。支払方法選択ウインドウ150では現金及び銀行等の口座が一覧表で表示され、この中から選択した項目が入力領域143へ反映される。例えば行151ではAB銀行総合口座を選択したことになり、入力領域143へ入力される。また決済日入力ウインドウ152は決済データ作成部131によって表示され、後払いの家計データの支払日を入力するウインドウである。例えば入力領域153は11月20日と入力している。

【0063】図24は家計簿データ134と買掛金データ135のデータ構造を示す図である。家計簿データ134は日付、家計科目、家計科目の内訳、金額、支払い方法が格納されている。支払方法には現金、銀行等の口座からの支払い、又は後払いの場合は買掛金として格納されている。例えばレコード160は10月12日に食費として1600円を現金で支払っており、レコード161では10月12日に日用品で6200円をクレジットカード等の後払い購入したので買掛金として格納されており、レコード162は、レコード161の買掛金を

決済するために決済実行処理部132が作成した家計データであり、AB銀行総合口座から6200円の預金を引き出し買掛金を決済している。買掛金データ135はレコード165に示すように1レコードのデータ領域で全部の買掛金の合計額が格納されている。従って、後払いで複数の購入を行った場合には、合計が買掛金データ135に格納され、支払日に銀行等の口座から決済されると、買掛金データ135は減少する。レコード165では家計簿データ134のレコード161の買掛金として6200円が格納されている。

【0064】図25は買掛決済データ136と口座残高データ137のデータ構造を示す図である。買掛決済データ136は1レコードが決済を行う日付、銀行等の口座名、決済する金額から構成されている。例えばレコード170は家計簿データ134のレコード161に対応しており、11月20日にAB銀行総合口座から6200円を決済することを表している。口座残高データ137は1レコードが銀行等の口座名と、現在の口座残高から構成されており、レコード172ではAB銀行総合口座の口座残高が150000円であることを示している。

【0065】図26は家計入力処理部130と決済データ作成部131の処理を示すフローチャートであり、請求項5における家計データ入力手段がS159、S160、S168からS170に相当し、支払指定手段がS161、S162に、決済日入力手段がS164、S165に相当し、決済データ作成手段がS166、S167に相当する。

【0066】ここでは、入力行141に着目して動作を説明する。家計入力処理部130に起動がかけると、S159：家計データ入力画面140をCRT3に表示する。S160：入力行141の家計データの日付、家計科目、家計科目の内訳、金額をキーボード5から入力する。S161：支払方法の入力のため、支払方法選択ウインドウ150をCRT3に表示する。S162：表示中のウインドウから支払方法、行151のAB銀行総合口座を選択して入力領域143に入力する。S163：支払方法が現金以外の銀行等の口座からの支払いのときはクレジットカードによる支払いや一括後払い等であり、後払いとなるのでS163Yへ分岐する。例えば入力行141はAB銀行総合口座を指定しているので、後払いとなりS163Yへ分岐する。現金での購入のときはS163Nへ分岐する。

【0067】S164：後払いの支払日を入力するための決済日入力ウインドウ152を表示する。S165：支払日を入力する。例えば入力行141の支払日を入力領域153では11月20日と入力している。S166：先にS160で入力された金額、S162で選択された銀行等の口座、S165で入力された決済日から決済データを作成し、買掛決済データ136へ格納する。

入力行141に対応したレコード170はその例であり、11月20日にA B銀行総合口座から6200円を決済することを表している。S167：買掛金(6200円)を加算し、買掛金データ135へ格納する。S168：家計データ入力画面で入力中のデータから家計データを作成し、S169：家計簿データ134へ追加する。これによって入力行141に対応する家計データ・レコード161が追加できた。S170：入力が未了であればS170Nへ分岐し再度S160から入力する。入力終了であればS170Yへ分岐し終了する。これらの処理によって、クレジットカードなど後払いの家計データが入力でき、現金や銀行等の口座残高に影響していない。しかし家計データ141を例に取れば、家計科目や内訳は入力されているので、家計科目別の支出等の集計は可能となっており、家計の分析は可能である。

【0068】図27は決済実行処理部132の処理を示すフローチャートである。この処理は家計簿プログラムを起動したときや、残高を集計するときに起動される。ここでは先の入力行141によって作成された買掛決済データ136のレコード170に着目して説明する。S180：買掛決済データ136から1レコードを読み込む。S181：読み込んだ1レコードの決済日が今日又は今日以前であるかを判断し、今日又は今日以前であればS181Yに分岐する。それ以外では、まだ決済日に達していないのでS181Nへ分岐する。S182：銀行等の口座残高を計算する。レコード170ではA B銀行総合口座から6200円を減算する。S183：買掛金データ135から決済金額(6200円)を減算し、買掛決済データ136から該当データ、レコード170を削除する。S184：振替を行った家計データを作成する。S185：家計簿データ134へデータを追加する。レコード162は実際にレコード170から作成した決済の家計データである。S186：買掛決済データ136が未了であればS186Nへ分岐し、終了であればS186Yへ分岐して終了する。これらの処理によって、銀行等の口座から買掛金が振替られ、後払いとなっていた支払いを行ったことになるので、銀行等の口座も正しく反映される。

【0069】なおこの実施例では、決済実行処理部132が起動されたとき今日までの決済データから家計データを作成していたが、後払いの家計データを入力した段階で、銀行等の口座残高に反映させない家計データを作成しておき、更新処理等で、今日までの家計データを集計し口座残高に反映させるという方法も可能である。

【0070】以上、この実施例で説明したように、クレジットカードやボーナス一括払いのように、購入日と支払日が異なるような支出でも、購入日に購入の家計データを入力でき、支払日に銀行等の口座から振替られるので、家計科目による分析にも正確に反映され、口座の残高も正確になる。また、この発明は電子式家計簿だけで

なく現金出納帳や財務会計でも利用可能である。

【0071】また、以上の請求項1から請求項5の実施例の説明の中では電子式家計簿として説明したが、パーソナルコンピュータ用の家計簿ソフトウェアとしても全く同じように実現可能である。

【0072】

【発明の効果】今まで説明したように、請求項1では、家計データ入力手段と贈答相手入力手段と物品指定手段と家計集計手段と贈答データ検索手段を備えたので、家計データ入力画面で物品の贈答データも入力できるようになり、贈答データ入力画面の起動や金銭の贈答の再登録が不要となるので、贈答管理の操作が容易になる。

【0073】請求項2では家計データ入力手段と贈答相手記憶手段と贈答相手選択手段と贈答データ入力手段と贈答一覧データ作成手段を備えたので、家計データ及び贈答データから贈答に関わるデータを集計できるようになり、贈答データ入力画面での金銭の贈答の再登録が不要となって、贈答管理の操作が容易になる。

【0074】請求項3では金券残高記憶手段と家計データ入力手段と金券選択手段と家計集計手段と金券残高集計手段とを備えたので、商品券やプリペイドカード等の金券データの入力を家計簿の中で入力でき、また金券による出費の明細が分かるようになるので、金券管理が可能となり退蔵を防ぎ有効利用することができる。

【0075】請求項4では口座残高記憶手段と振替データ記憶手段と事前チェック期間記憶手段と口座残高チェック手段とメッセージ表示手段を備えたので、自動振替によって口座残高が不足するときは事前にメッセージが表示され、口座残高不足による自動振替不可を防ぐことができ、また必要以上の口座への入金を防ぎ、資金の有効利用ができる。

【0076】また請求項5では家計データ入力手段と支払い指定手段と買掛金記憶手段と決済日入力手段と決済データ作成手段と決済実行手段をそなえたので、クレジットカード等の購入による、購入日と支払日が異なる家計データでも、購入日に購入の家計データを入力でき、支払日に銀行等の口座から振替られるので、家計科目による分析にも正確に反映され、口座の残高も正確になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】請求項1における実施例の機能ブロック図である。

【図2】図1の実施例の家計データ入力画面及び贈答一覧表を示す図である。

【図3】図1の実施例の家計簿データ16のデータ構造を示す図である。

【図4】図1の実施例の家計入力処理部11、相手入力処理部12、物品指定処理部13の処理のフローチャートである。

【図5】図1の実施例の家計集計処理部14の処理のフ

ローチャートである。

【図 6】図 1 の実施例の検索一覧処理部 15 の処理のフローチャートである。

【図 7】請求項 2 における実施例の機能ブロック図である。

【図 8】図 7 の実施例の家計簿データ 43 及び物品贈答データ 45 のデータ構造を示す図である。

【図 9】図 7 の実施例の家計データ入力画面及び贈答データ入力画面を示す図である。

【図 10】図 7 の実施例の家計入力処理部 40 の処理のフローチャートである。

【図 11】図 7 の実施例の贈答入力処理部 41 の処理のフローチャートである。

【図 12】図 7 の実施例の贈答一覧データ作成部 42 の処理のフローチャートである。

【図 13】請求項 3 における実施例の機能ブロック図である。

【図 14】図 13 の実施例の現金口座残高データ 74 及び金券口座データ 75 のデータ構造を示す図である。

【図 15】図 13 の実施例の家計データ入力画面及び金券口座選択ウインドウを示す図である。

【図 16】図 13 の実施例の家計入力処理部 70 の処理のフローチャートである。

【図 17】図 13 の実施例の家計集計処理部 71 及び金券残高集計部 72 の処理のフローチャートである。

【図 18】請求項 4 における実施例の機能ブロック図である。

【図 19】図 18 の実施例の表示処理部 100 によって表示されるメッセージ例を示す図である。

【図 20】図 18 の実施例の振替データ 103 及び口座残高データ 104、口座下限額データ 105 のデータ構造を示す図である。

造を示す図である。

【図 21】図 18 の実施例の表示処理部 100 及び口座残高チェック部 101 の処理のフローチャートである。

【図 22】請求項 5 における実施例の機能ブロック図である。

【図 23】図 22 の実施例の家計データ入力画面、支払方法選択ウインドウ及び決済日入力ウインドウを示す図である。

【図 24】図 22 の実施例の家計簿データ 134 及び買掛金データ 135 のデータ構造を示す図である。

【図 25】図 22 の実施例の買掛決済データ 136 及び口座残高データ 137 のデータ構造を示す図である。

【図 26】図 22 の実施例の家計入力処理部 130 及び決済データ作成部 131 の処理のフローチャートである。

【図 27】図 22 の実施例の決済実行処理部 132 の処理のフローチャートである。

【符号の説明】

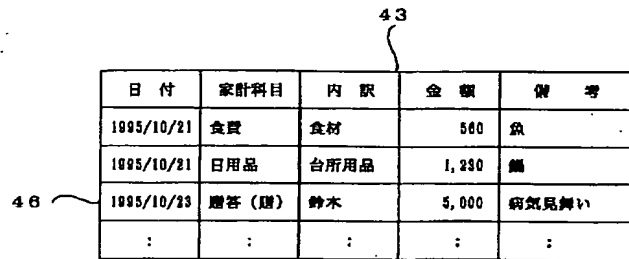
- 1 : CPU
- 2 : 主メモリー
- 3 : CRT
- 4 : マウス
- 5 : キーボード
- 6 : HDD
- 11 : 家計入力処理部
- 12 : 相手入力処理部
- 13 : 物品指定処理部
- 14 : 家計集計処理部
- 15 : 検索一覧処理部
- 16 : 家計簿データ
- 17 : 科目データ

【図 3】

18

	日付	家計科目	科目内訳	金額	物品 フラグ	備 考
	1995/02/12	食費	主食	1,980		米 5 キロ
	1995/02/12	食費	副食	860		揚げ物
36	1995/02/12	贈答(受)	鈴木	5,000		出産祝い
37	1995/02/15	贈答(受)	田中	3,000	物品	出産祝い、服
	:	:	:	:		:
38	1995/03/02	贈答(贈)	鈴木	3,000	物品	出産祝いお返し
39	1995/03/02	贈答(贈)	田中	1,000		出産祝いお返し

【図8】



日付	贈与/受取	贈答相手	金額	備考
1995/10/28	受取	鈴木	2,000	快気祝い
1995/11/10	贈与	佐藤	3,000	出産祝い
：	：	：	：	：

【図9】

Figure 1 is a schematic diagram of a household data input screen. The screen is divided into a header section and a data entry table. The header section contains the text "家計データ入力" (Household Data Input) and "1996年" (1996). The data entry table has five columns: "日付" (Date), "家計科目" (Household Item), "内訳" (Details), "金額" (Amount), and "備考" (Remarks). The table contains four rows of data: 10/21 食費 食材 580 魚; 10/21 日用品 台所用品 1,230 鯖; 10/23 贈答(贈) 鈴木 5,000 病気見舞い; and an empty row. The diagram includes various reference numerals: 50 points to the header area, 56 points to the first column, 57 points to the second column, 51 points to the first row, 52 points to the second row, 53 points to the third row, 54 points to the fourth row, and 55 points to the fifth row.

家計データ入力				
1996年				
日付	家計科目	内訳	金額	備考
10/21	食費	食材	580	魚
10/21	日用品	台所用品	1,230	鯖
10/23	贈答(贈)	鈴木	5,000	病気見舞い

32

贈答一覧表

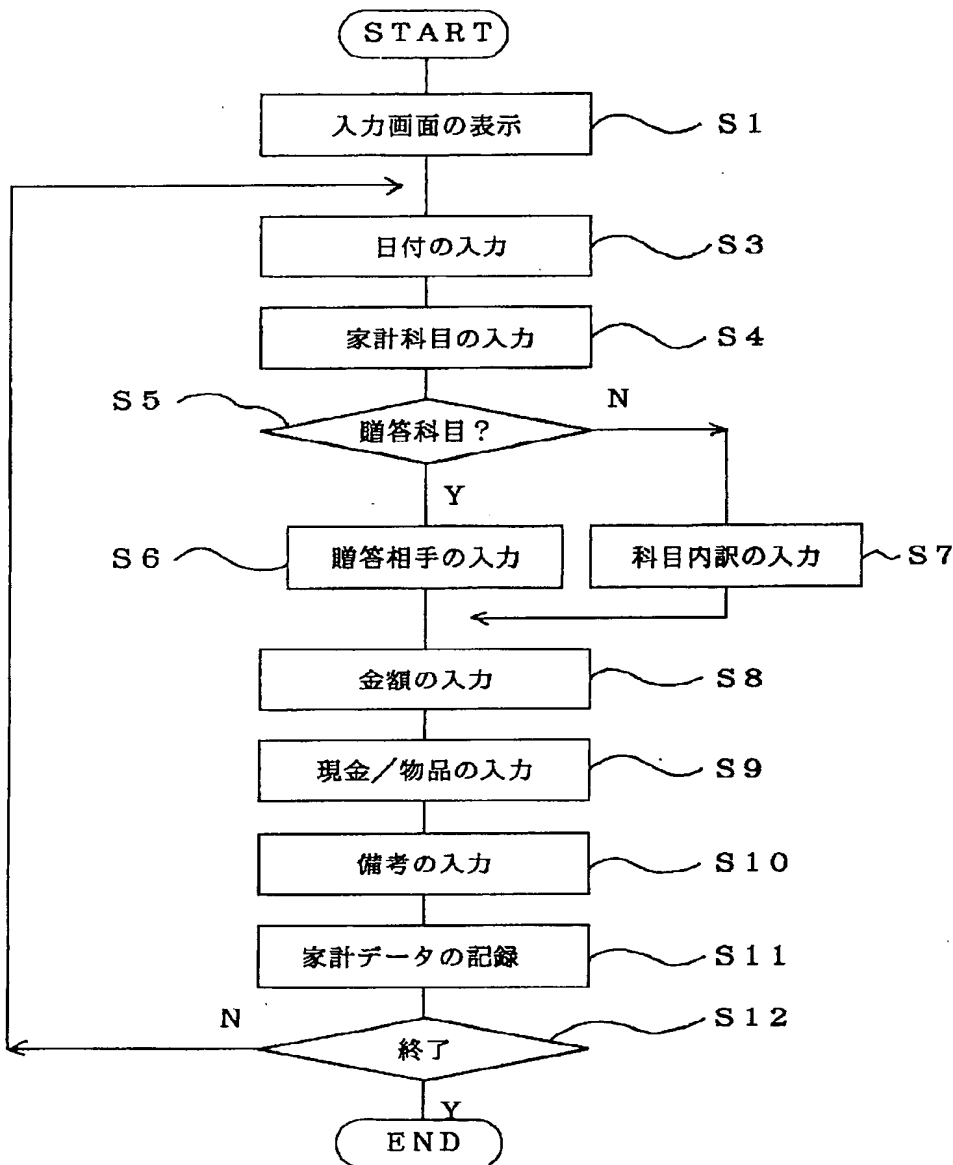
相手 鈴木氏

日付	贈受	種別	入金	出金	備考
1995/02/12	受取	現金	5,000		出席祝い
1995/03/02	贈与	物品		3,000	出席祝いお返し
1995/03/21	贈与	現金		5,000	入学祝い
1995/04/08	受取	物品	3,000		入学祝いお返し
:	:	:	:	:	:
:	:	:	:	:	:
合計			18,000	16,000	差額 2,000

Figure 1 is a schematic diagram of a data entry screen. The screen is divided into five vertical sections labeled 60 to 64. Section 60 is the title bar containing the text '贈答データ入力' (Gift Data Entry). Section 61 is the main area containing a table. The table has five columns: '日付' (Date), '贈/受' (Gift/Receive), '贈答相手' (Gift Recipient), '価額/金額' (Value/Amount), and '備考' (Remarks). The table contains two rows of data: one for 10/28 with a gift of 2,000 yen to '鈴木' (Suzuki), and another for 11/10 with a gift of 3,000 yen to '佐藤' (Sato). The table also has empty rows for additional entries. Section 62 is the area below the table. Section 63 is the area below section 62. Section 64 is the area below section 63. Section 65 is the area below section 64.

日付	贈/受	贈答相手	価額/金額	備考
10/28	受取	鈴木	2,000	快気祝い
11/10	贈与	佐藤	3,000	出産祝い

【図4】



【図14】

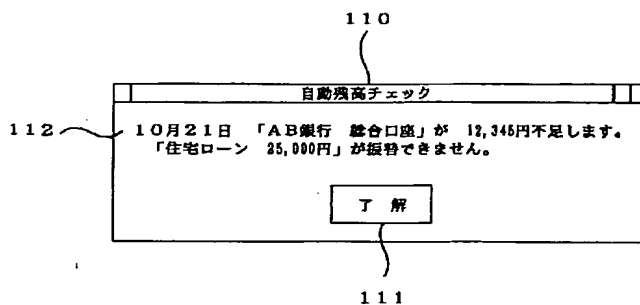
74

口座名	口座残高
現金	12,000
AB銀行	100,000
CD銀行	50,000
:	
XX銀行	500,000

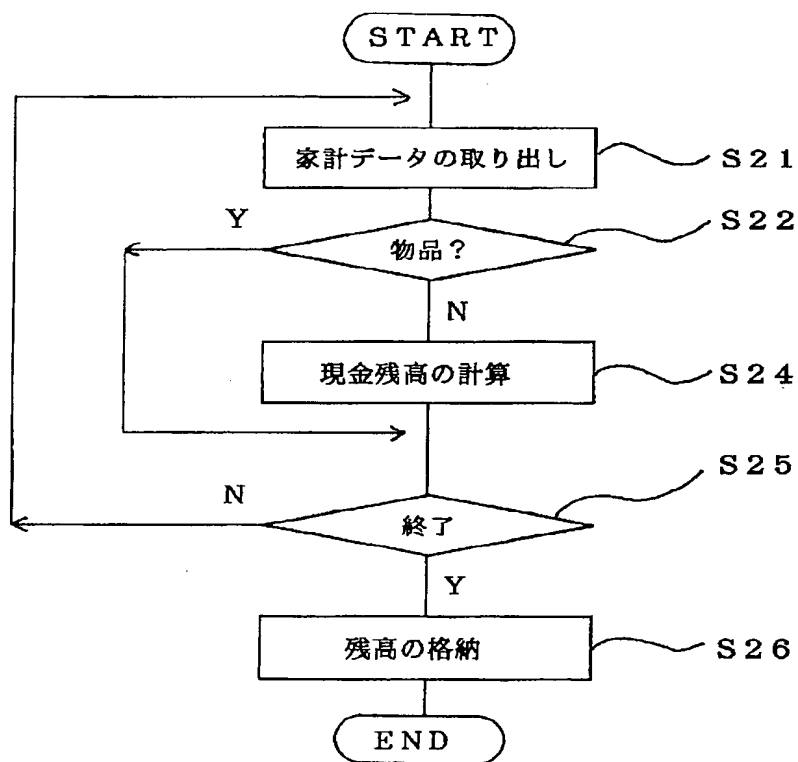
75

金券名	金券残高
AA商品券	5,000
BB商品券	8,000
:	:
CCカード	23,000

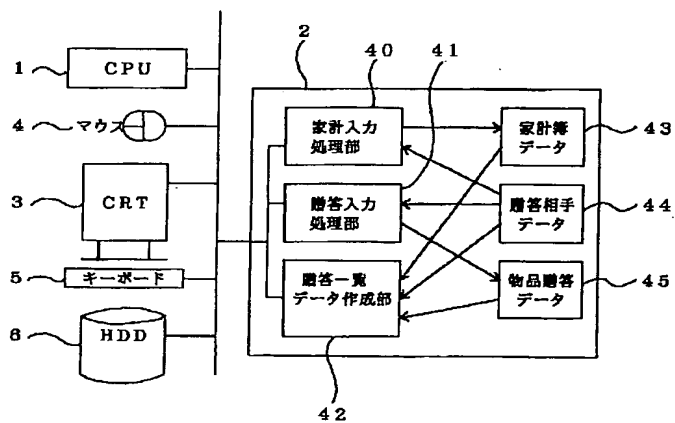
【図19】



【図5】



【図7】



【図15】

Figure 15 shows a screenshot of the '家計データ入力' (Household Data Input) screen. The screen displays a table with columns for date, item, description, amount, and cash/voucher. The data is as follows:

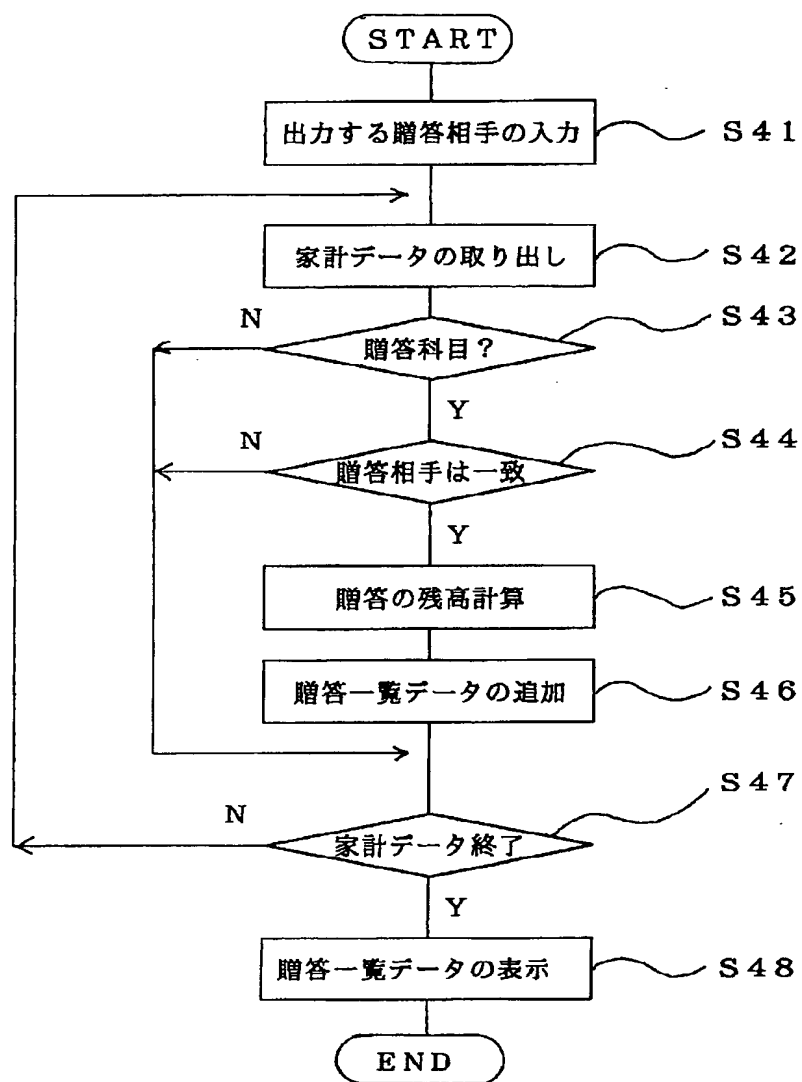
日付	科目	内訳	金額	現金/金券
10/21	食費	食材	600	金券A
10/21	日用品	台所用品	1,200	金券A
10/22	食費	主食	280	現金
10/23	食費	食材	2,200	金券B

The screen is labeled with 80 at the top and 81, 82, 83, 84, 85 at the bottom, corresponding to the columns.

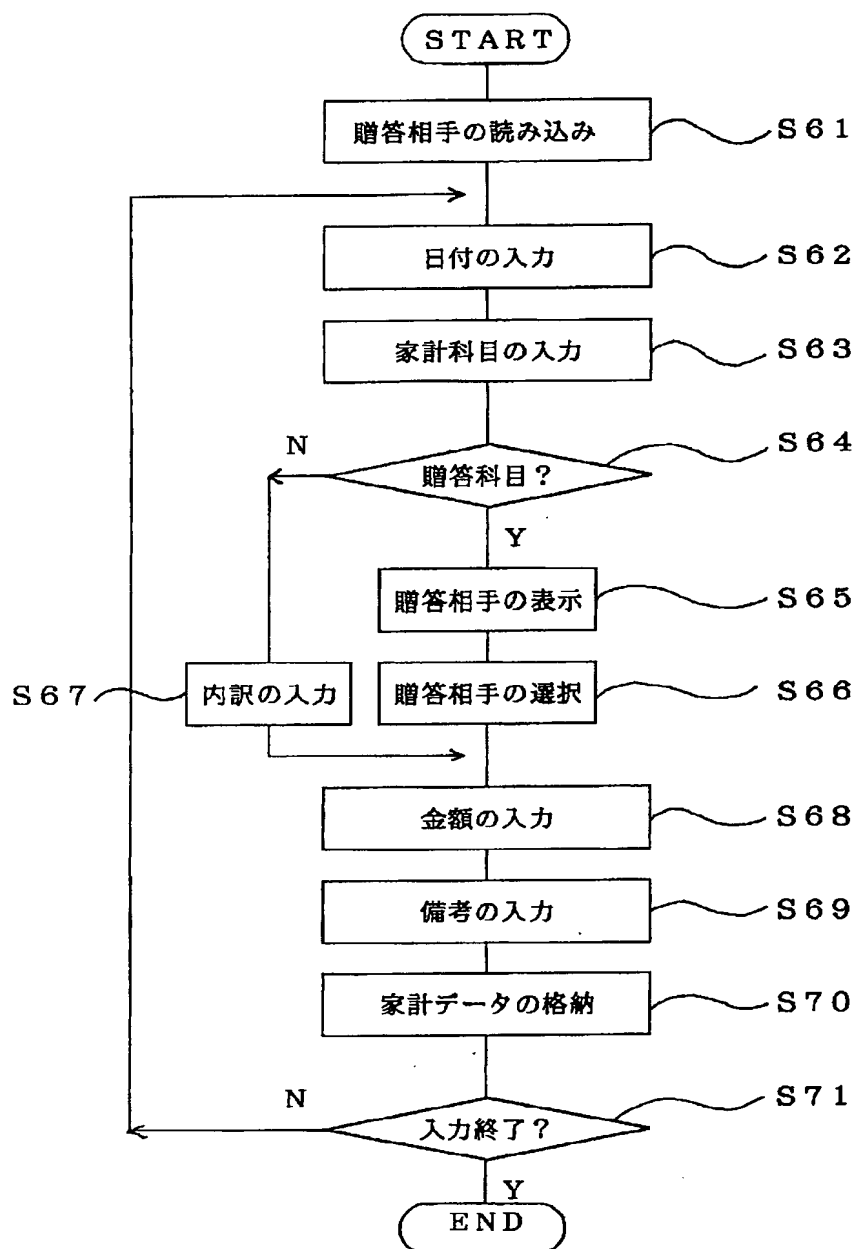
86

金券口座選択
 金券A
 金券B
 金券C
 :

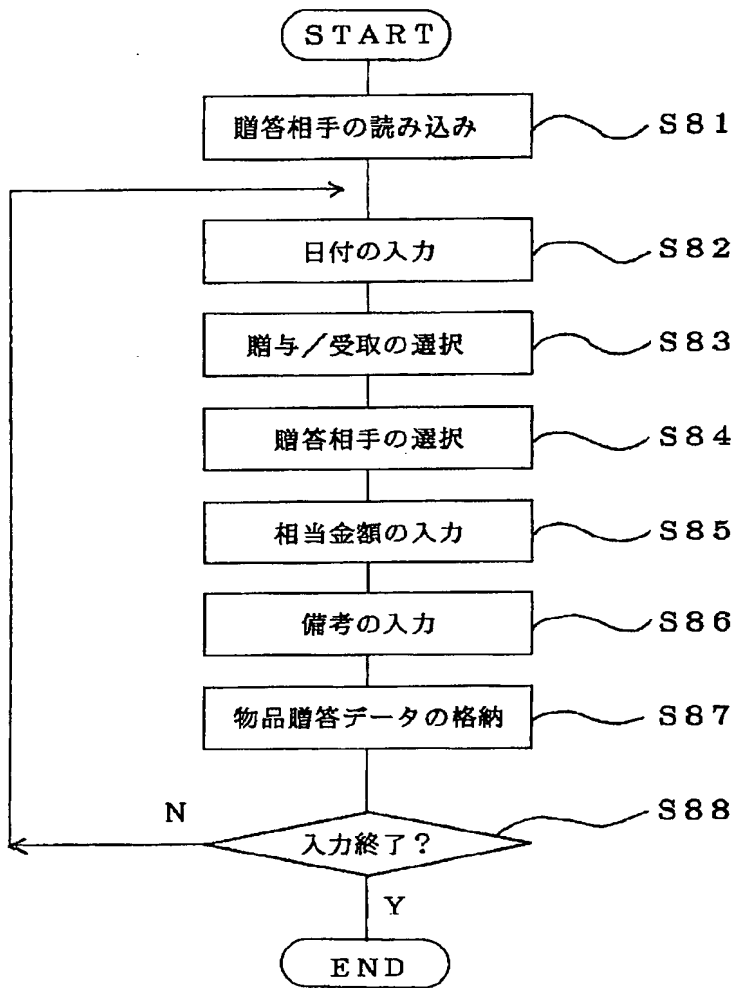
【図6】



【図10】



【図11】



【図25】

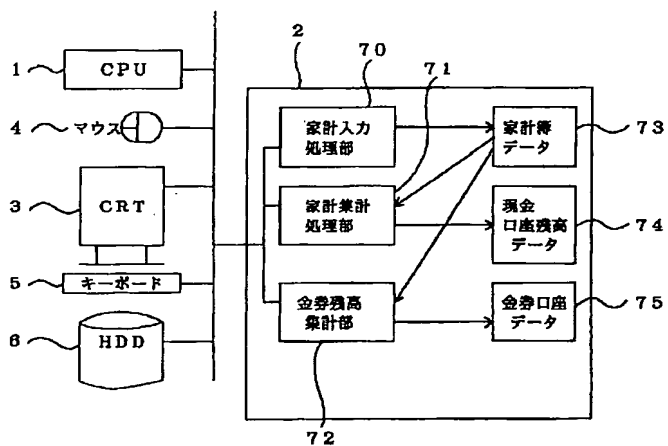
Table 136:

日付	口座名	決済額
11月20日	AB銀行 総合	6,200
11月20日	CD銀行 総合	10,000
:	:	:

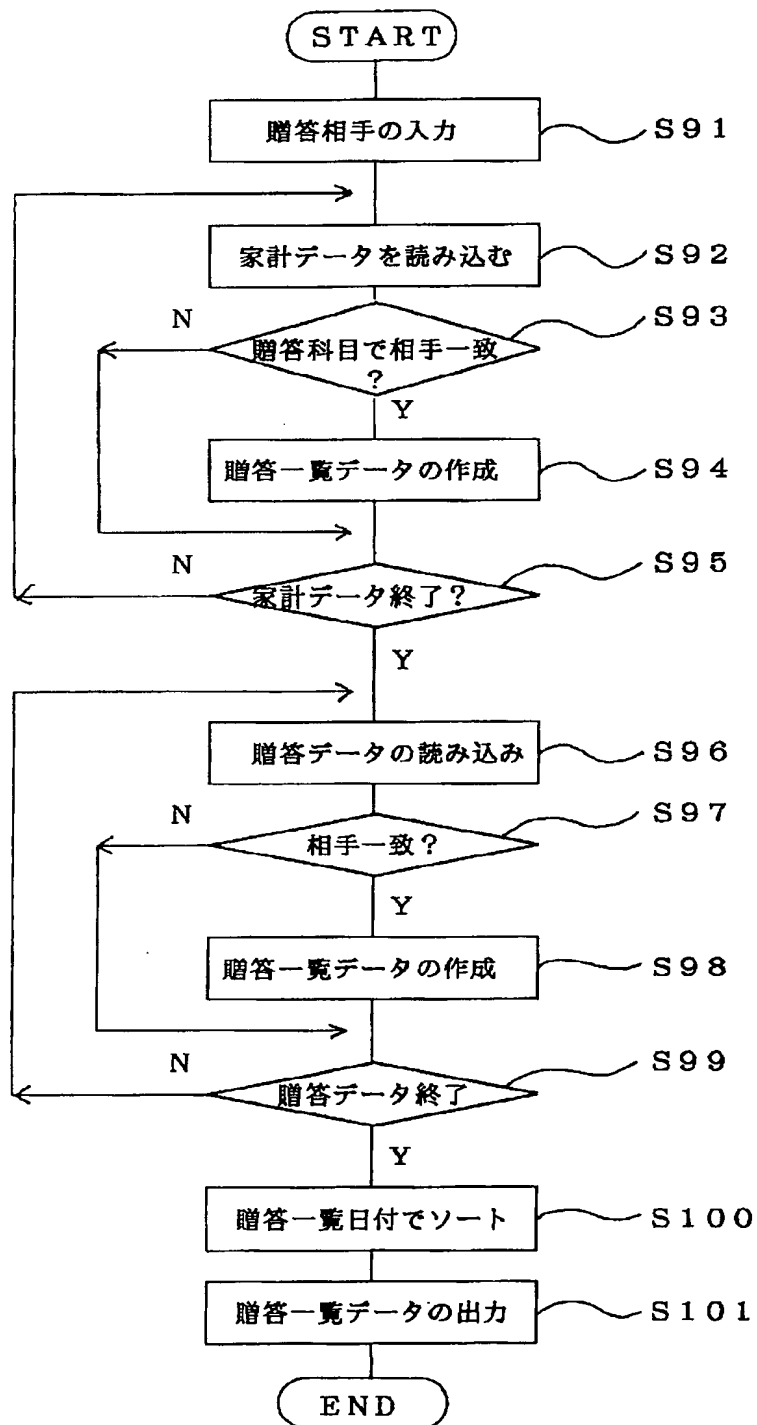
Table 137:

口座名	口座残高
AB銀行 総合	150,000
CD銀行 総合	50,000
:	:
XX銀行 総合	10,000

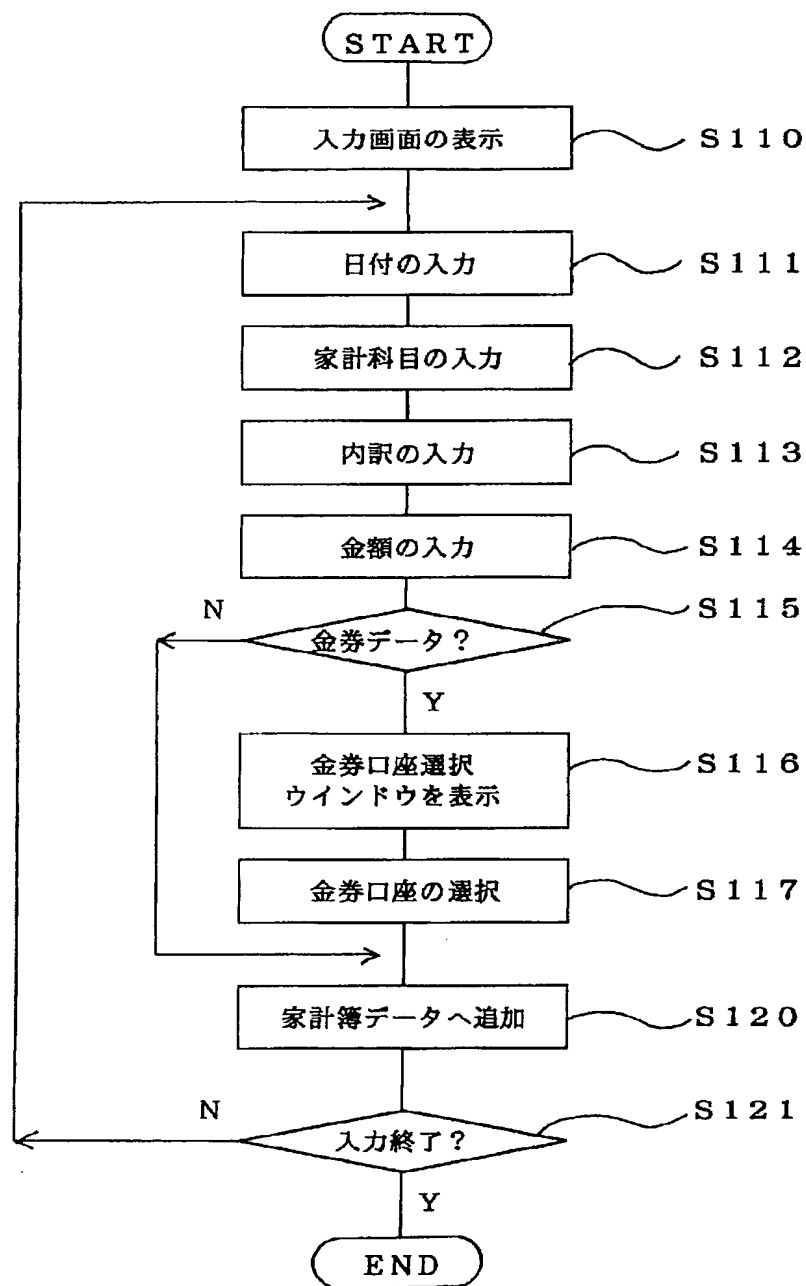
【図13】



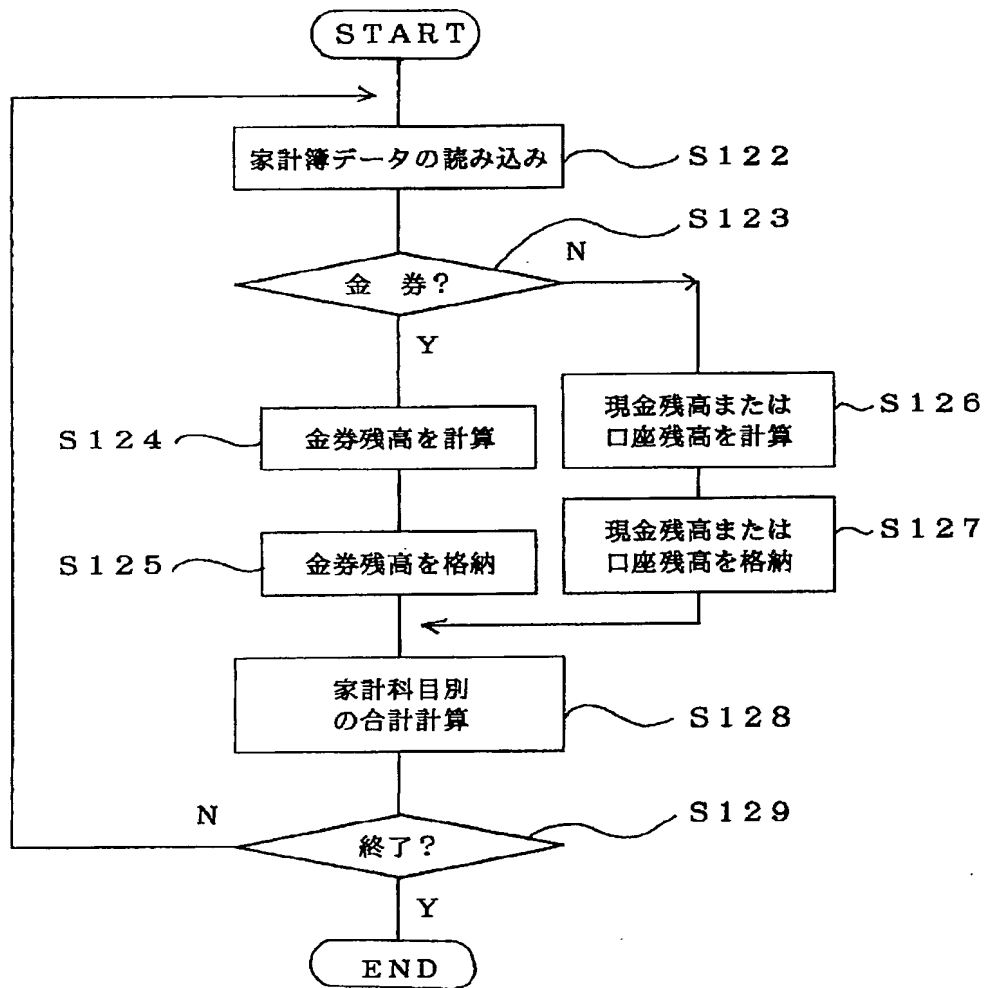
【図12】



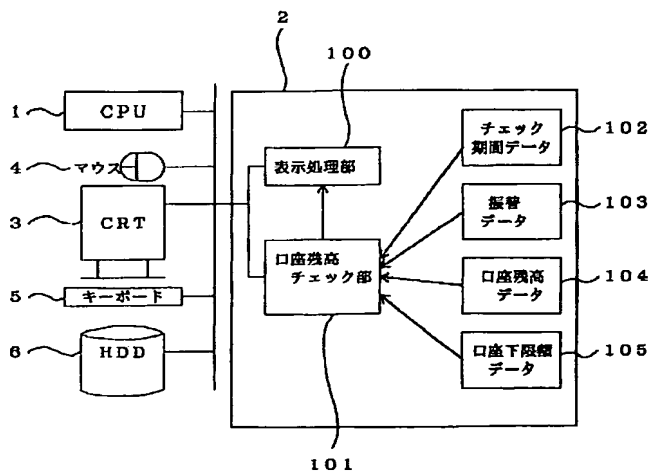
【図16】



【図17】



【図18】



【図20】

日付	家計科目	内訳	金額	口座
毎月12日	水道光熱費	水道料	1,600	AB銀行 総合
毎月20日	水道光熱費	電気料	6,200	AB銀行 総合
毎月22日	交通通信費	電話料	4,800	CD銀行 総合
:	:	:	:	:
毎月25日	交通通信費	受信料	4,200	CD銀行 総合

【図23】

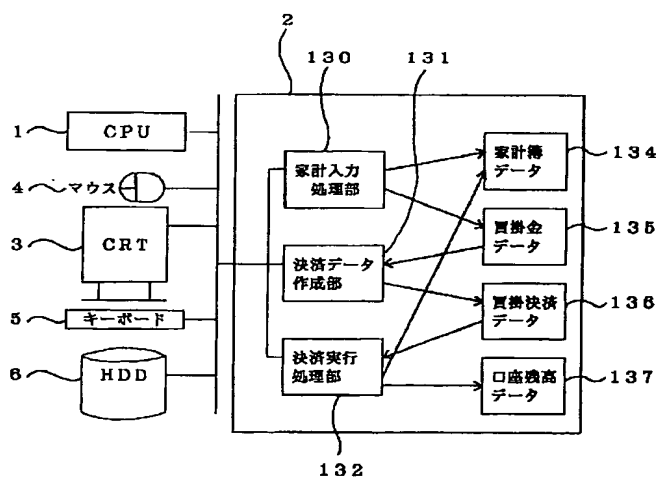
家計データ入力				
1995年				
日付	家計科目	内訳	金額	現金・口座
10/21	食費	食材	580	現金
10/21	日用品	台所用用品	1,280	AB銀行総合
10/22	食費	主食	380	現金
10/23	食費	食材	2,800	CD銀行総合

口座名	口座残高	口座下limit
AB銀行 総合	1,000	0
CD銀行 総合	10,000	-50,000
:		
XX銀行 総合	200,000	20,000

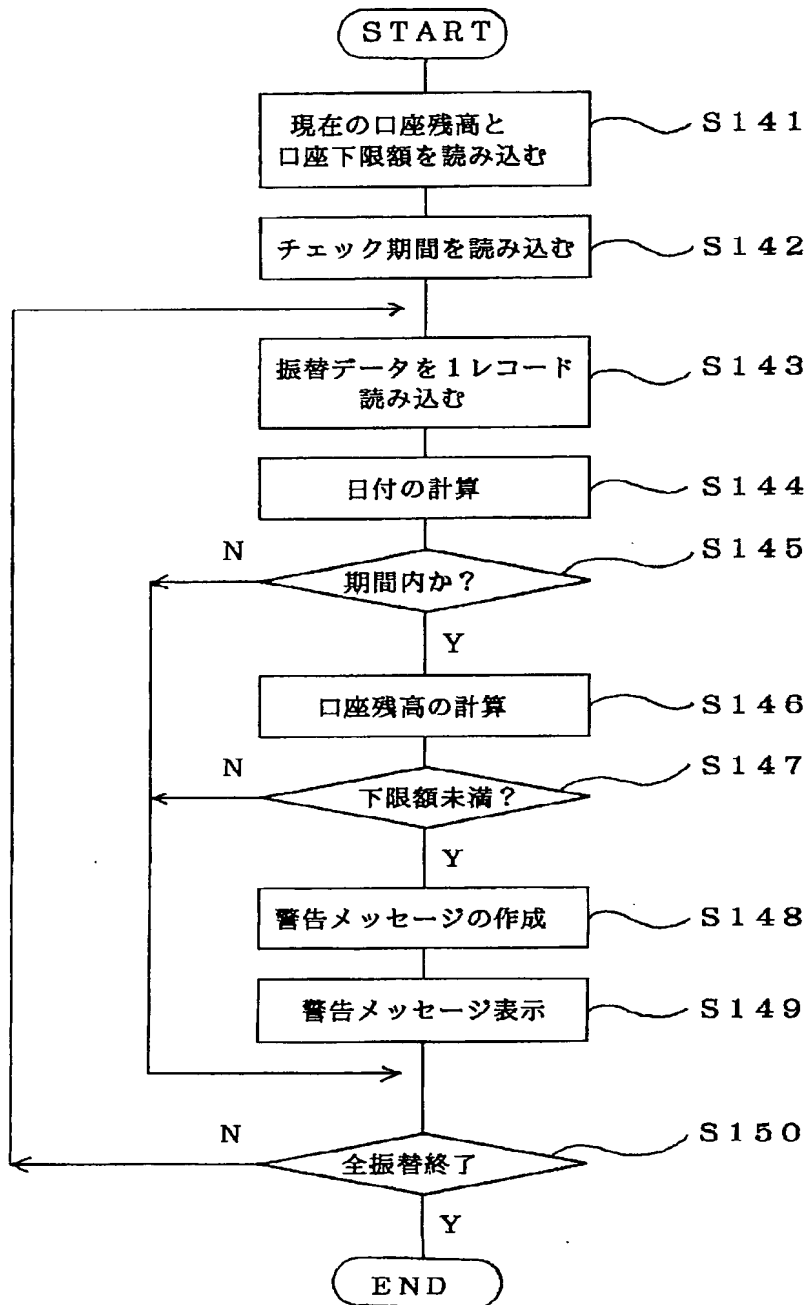
支払方法選択	
現金	
AB銀行 総合	
CD銀行 総合	
:	
XX銀行 総合	

決済日入力	
決済日を入力して下さい	
11月20日	

【図22】



【図21】



【図24】

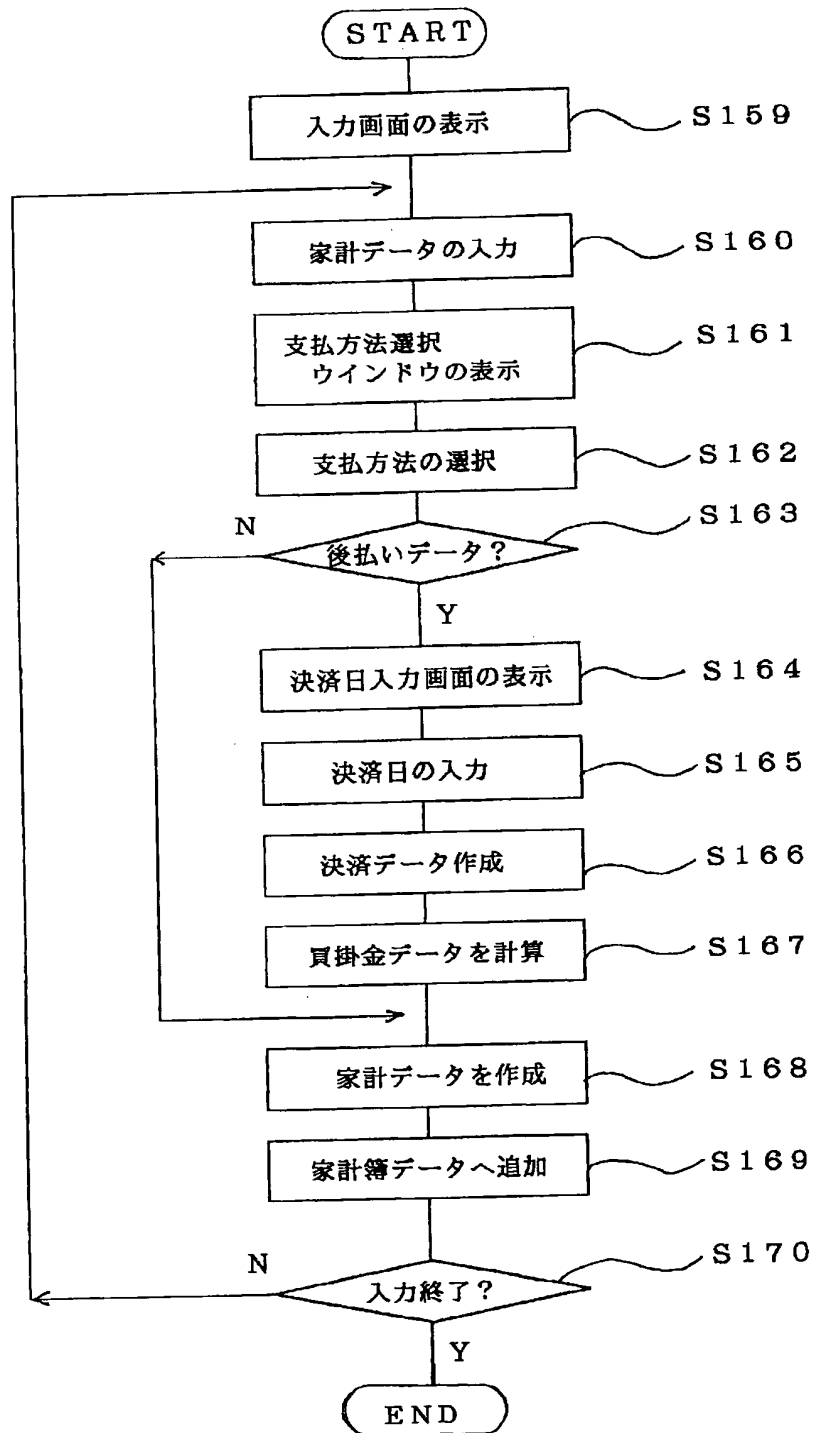
134

	日付	家計科目	内訳	金額	現金／口座
160	10月12日	食費	惣菜	1,600	現金
161	10月12日	日用品	台所品	6,200	買掛金
	：	：	：	：	：
162	11月20日	買掛金決済		6,200	AB銀行 繰合

135

	名称	決済額
165	買掛金	6,200

【図26】



【図27】

